

教育振興運動メールマガジン

「みんなで教振！」通信 ★家庭学習と読書推進のポイント教えます★

☆☆☆ このメルマガの内容とは？ ☆☆☆

このメールマガジンは、教育振興運動全県共通課題（「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」）の推進にあたり、実践事例の紹介や意見交流を行うために、各実践区事務局、県内小中学校、市町村教育委員会、県内指導主事・社会教育主事、そのほか関係者の方々に送信しているものです。

< 目 次 >

- 1 【事例紹介 13】 「安渡実践区（大槌町）」 《家庭学習》
 「甲子地区実践区（釜石市）」 《読書推進》
 - 2 【家庭学習】 「テレビと読書と学力と！」再び・・・。
 - 3 【読書推進】 「朗読家の技と心得」
 - 4 【教振は今】 教ちゃん、振ちゃん見聞録
 - 5 【みんなの声】 ペっこ言い隊
 - 6 【編集後記】 あつしのひとりごと
-

- 1 【事例紹介 13】 「安渡実践区（大槌町）」 《家庭学習》
 「甲子地区実践区（釜石市）」 《読書推進》

今回は、釜石地区から2つの事例を紹介します。

(1) 安渡実践区では、全校統一の「家庭学習計画表」を活用し、毎日学校で下校後の生活の仕方を決定してから児童を家庭に帰しています。それを受けて、各家庭では配布された「家庭学習の手引き」を参考に、テレビやゲームの時間は1日2時間以内とするなど生活リズムを整え、家庭学習を支援しています。

事例⇒ http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_ando.pdf

(2) 甲子地区実践区では、毎週月曜日を「ノー・メディア・デー」とし、夜の19:30～21:00は、「テレビ・ゲーム・携帯電話・パソコン」を使用せず、読書・宿題・家族の団樂の時間にする取組をおこなっています。

教振メルマガ第13号で紹介しました「ESD円卓会議」の「テレビ・ゲーム・パソコンを消して読書をする共同行動2009（県内162校の参加）」にも参加し、「地球環境を守る」エコ意識の向上にも取り組んでいます。

事例⇒ http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_kassi.pdf

2【家庭学習】 「テレビと読書と学力と！」再び・・・。

<データ1> 平日のテレビ等視聴時間（4月実施：全国学力テストより）

★小学6年：「平日に3時間以上、テレビ・ビデオ・DVDを見ている」

	2007年度	2008年度	2009年度
全国平均	34.3%	⇒ 46.1%	⇒ 45.7%
岩手県平均	38.9%	⇒ 51.7%	⇒ 50.9%

★中学3年：「平日に3時間以上、テレビ・ビデオ・DVDを見ている」

	2007年度	2008年度	2009年度
全国平均	33.1%	⇒ 39.6%	⇒ 38.0%
岩手県平均	40.1%	⇒ 47.6%	⇒ 44.9%

メルマガ第1号では、“テレビと読書と学力と”というタイトルで、岩手県はテレビの視聴時間が全国最長（2007年調査）であることを取り上げました。その衝撃の2007年度から今年度までの推移を見て、皆さんはいかがお感じですか？子どもたちの生活が改善されていない事実を、どう受け止めますか？

昨年2～3月に「家庭学習の充実と読書活動の推進を全県共通の課題として取り組みましょう」と提案して、2009年度がスタートしました。

5～6月に県内各地で開催された研修会では、学校の「まなびフェスト」を支援する全県共通課題を学校・地域・家庭でどう取り組むかについて協議をし、7月からスタートした「教振メルマガ」で、取り組むにあたっての参考事例を紹介してきました。

今年度から本格的に提案しはじめたものにも関わらず、多くの市町村が共通テーマとして取り組んでおります。今年度の取組を集約する時期となり、子どもたちの生活が変わってきたと手ごたえを感じることができたらいいですね。2010年度には、「データ1」の結果が改善されていることを期待しています。

<データ2> 今年度の「全県共通課題」取組状況（教振推進状況調査より）

★市町村・地区全体の共通テーマとして「全県共通課題」を設定したところ

[回答数：旧市町村による回答により、46市町村・地区]

- 「家庭学習」「読書活動」の両方に取り組んだ・・・25市町村・地区
- 「家庭学習」だけ、取り組んだ・・・3市町村・地区
- 「読書活動」だけ、取り組んだ・・・5市町村・地区
- 共通テーマとせず、実践組織にまかせた・・・12市町村・地区
- 教育振興運動に取り組んでいない・・・1市町村・地区

「よかった」「楽しかった」という“取組の感想”で終わらず、「子どもたちの生活実態が改善され、子どもや地域が変わったか」という“目的の達成度”を確認する集約・評価が大切です。

2009年度「平日のテレビ・ビデオ・DVDの視聴時間」のデータはこちら。

3【読書推進】 「朗読家の技と心得」
(H22.1.23.読売新聞「学びの現場から」より)

教師になってよかった・・・と思うことの一つに、「プロから学ぶ機会がある」ということがある。昨年 11 月にプロの朗読家で俳優の樹原ゆりさんを本校に招き、“大人を対象”に朗読会を開いた。

地域の“教育振興会”の活動の一環で、事務局である私が企画、実行した。午後 6 時半からの会には 20 人以上が集まった。そこで「やはりプロ」と感じたことがいくつもあった。

(1) 読む時の表情

朗読がすばらしいのは言うまでもない。それ以上に感心したのは、その表情だ。会話文の時には本から目を離し、実際に会話している表情をする。感情が高ぶる場面では、その気持ちがはっきりと伝わってきた。

(2) 音楽と光の効果

音楽にも朗読会の雰囲気作りに大きな影響を与えていた。見事な選曲だった。スポットライトだけの光は、映画と同じ環境で、集中して聴き入ることができた。

(3) 臨機応変の見事さ

子ども連れでいらした方がいた。その子たちを見て、樹原さんはすぐに控え室に戻り、幼児向けの本をもってきて、最初にその本を朗読した。その子たちは夢中になって聴いていた。その臨機応変さに感心すると共に、レパトリーが豊富だからこそその技なのだと感心した。

(4) 努力が一番

朗読会終了後に情報交換会をした。一番印象に残ったのは「朗読の練習を続けてきたことで、女優としての幅を広げることができた」という話だった。当たり前なことではあるが、素質だけでなく努力することの尊さを改めて感じた。

参加した皆さんの「感動した」という言葉を聞き、主催した甲斐があったと思った。同時に、私自身もプロからたくさん学んだ貴重な会であった。

(軽米町立笹渡小副校長 佐藤正寿 48)

いかがですか？読み聞かせをおこなっている方には、朗読やストーリーテリングに興味を持っている方も多くいると思います。また、朗読、ストーリーテリングに限らず、読み聞かせ会での演出としても参考になるとと思います。

何より、地域の教育振興運動の一環として、大人を対象に取り組まれたことが

素晴らしいと思いました。この日参加した方々が、参加できなかった地域の方々にその「感動」を伝えることによって、運動の輪は広がっていくのです。

第 13 号では「家庭学習」の今年度の調査結果を掲載しましたが、今回は「読書活動」の結果を掲載します。各学校・実践区の実態と比較してみてください。

資料 2 ⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/21dokusyojikanhikaku.pdf>

資料 3 ⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/21dokusyojikaniwate.pdf>

4 【教振は今】 教ちゃん、振ちゃん見聞録

(教ちゃん) TV を見てくれましたか？あなたのアイドル“教ちゃん”で～す。

(振ちゃん) はいはい。

(教ちゃん) 奥州市前沢区では、「チーム教振」も参加して、12 月におこなった集約大会の反省をしたの。大会参加者のアンケートの“日頃から考えていること”の回答として、「家庭学習・基礎学力・学習習慣」があがっていたわ。

(振ちゃん) 児童生徒の実態調査を改善することを目指して、全県共通課題に取り組んでいければいいね。

(教ちゃん) 「チーム教振」は、奥州市前沢区の他にも、田野畑村、花巻市、岩手町、釜石市の集約大会にも参加したのよ。

(振ちゃん) 12 月に市町村の皆さんから回答をいただいた教育振興運動推進状況調査では、「チーム教振」を来年度活用したいと 3 市町村が考え、18 市町村が検討中なんだって。

(教ちゃん) わあ。うれしいわ。年度末のまとめの会議で、ぜひ前向きに検討してほしいわ。あなたのアイドルは、どこでも行っちゃうわ。

(振ちゃん) また、それですか……。

5 【みんなの声】 ペっこ言い隊

テレビ見ました。短い番組とはいえ、「教育振興運動」がテレビに取り上げられた、岩手県の取組として取り上げられたということが画期的であり、うれしく思いました。みんなあ、もっと「教振」を盛り上げていこう。がんばろう！教ちゃんも映ってましたね。「彦にゃん」みたいに着ぐるみになれば、子どもたちの人気者になれるのに……。(H市 Sさん)

メルマガの感想や日頃思っていることをどんどんお寄せください。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

6 【編集後記】 あつしのひとりごと

「勉強って楽しいねえ。学ぶことっていいねえ」と小学生の 3 人の子どもたち

に伝えたい気持ちです・・・。

介護士の資格を取得するために、昨年から子どもたちと一緒に勉強している主婦（43歳）の投稿（1月12日付け読売新聞）に目が留まりました。

母親が勉強をしている姿は、子どもたちにとって新鮮だったようで、「ママが勉強しているなんて面白い」、「嫌々ではなく、楽しそうに勉強しているママを見ると、僕たちも勉強が楽しいと思えるよ」との声が聞かれたそうです。

「それぞれの部屋で机に向かうより、みんなで一緒に勉強する方がはかどる」とも書かれていました。「勉強しなさい」と言わなくても、お母さんの姿を見てそこから学んでいる子どもたち。

親子が寄り添っているあたたかさが伝わってきて、うれしくなりました。と同時に、自分はどのような姿を息子に見せているだろうかと考えさせられました。

⇒ 第15号は、2月25日（火）配信です。

★教育振興運動の資料・「教振メルマガ」のバックナンバーは、こちらまで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index.html>

★このメールへの感想、ご意見・ご要望は、こちらまで。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

★生涯学習の役立ち情報なら何でも「まなびネットいわて」まで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/>

★子育てに迷ったら、ひとりで悩まず「子育ていわてケータイサイト」に。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kt-shien/>

～～～配信元～～～

* 岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

* 発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気をおあなたから作りだしてください。

⇒ 学校新聞の裏面に掲載しての各家庭への配布、回覧板を使つての自治会・子ども会への回覧も大歓迎です！

～～～